

令和7年度 展覧会事業計画

[特色] 安部公房展、長谷川四郎展と、全国的な視野をもつ一方で、北海道の文学史にも目を向け、文学館コレクション展を配置。幅広い層を対象とした展示としておばけのマール展やファミリー文学館を開催。「見る」「読む」を組み合わせ、バラエティーに富んだ構成とする。

※ 開催時期及び展示内容は、変更になる場合があります。

事業項目		事業概要		目標観覧者数	特記事項
展覧会事業	常設展	事業名 (開催時期)	北海道の文学 (通 年)	8, 600	・展示室の一角の文学館アーカイブコーナーでは、年5回程度テーマを設定して展示替えを行い、収蔵資料をさまざまな角度で紹介する。
		[趣旨] 明治以降の北海道ゆかりの文学者や作品を、直筆原稿や書画、色紙・短冊、稀観本など貴重資料を中心に精選し、分野別に網羅的に紹介。 [構成] 北海道の小説・評論、アイヌ民族の文学、詩、短歌・俳句・川柳等短詩型、児童文学など。平成以降の展示を中心に、さらに充実を図る。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「安部公房展 21世紀文学の基軸」 (6～8月)	4, 200	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 昨年生誕100年を迎えた安部公房（1924～1993）。その創作活動は、詩作にはじまり、『壁』『砂の女』などの小説、戯曲、写真、演劇グループ・安部公房スタジオによる総合芸術の追究まで多岐にわたり、自明なはずの名前や身体が揺らぎ、従来の規範が突如として転倒する世界を描いた作品の数々は、国境を越え多くの読者を得ている。 本展では、神奈川近代文学館の協力を得て、時代の先端をとらえ続けた表現者・安部公房の作品テーマが持つ意味を21世紀の今日において問い直します。北海道との縁を紹介する「安部公房と北海道」コーナーも併設する。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「長谷川四郎とそのきょうだい」 (9～11月)	2, 500	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 大正から昭和、函館出身の長谷川家の四人の兄弟——海太郎、湊二郎、濬、四郎は、各々文学や絵画などに独自の足跡を記しました。長兄・海太郎は林不忘、牧逸馬、谷譲次の3つものペンネームによる執筆で知られている。末弟の四郎（1909～1987）は従軍と捕虜体験から小説「シベリヤ物語」（1951年）や「鶴」（1953年）で注目を集め、その後も淡々とした表現のなかに、時空を自在に往来しつつ詩情とユーモアを湛えた創作を続けた。 本展ではこの才能溢れる四兄弟、とりわけ四郎の仕事に注目し、その自由人の境地から生まれる文学の魅力に迫る。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「おばけのマール ほんがだいすき」 (11～1月)	4, 200	・関連普及事業（講演会、セミナー、朗読会等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 「まちのちかくのまるやまにおばけのマールがすんでいました」ではじまる絵本シリーズ。かわいいおばけのマールが札幌を中心としたいろいろな場所に出かけていき、すてきな体験をするお話で、少しでも多くの人たちが地元にある宝物に気づき親しんでほしいという願いがこもっている。 2005年に『おばけのマールとまるやまどうぶつえん』が刊行されてから20年。節目となる今年の新刊では、マールが北海道立文学館に!? 身近な場所をあざやかにやさしく彩ってくれるマールの世界に、絵本そして展覧会をとおしてふれていただく。			
	特別展	事業名 (開催時期)	「文学館コレクションの輝き」 (1～3月)	2, 000	・関連普及事業（講演会、セミナー等）を期間中に開催する。
		[趣旨・内容] 1966年の最初の北海道文学展以来、連綿と続けられてきた文学館の収集活動。現在の資料点数は38万点を超えます。原則分野別・作家別などに分類され配架される資料ですが、中には収蔵時のまとまりを保ちそれぞれの特色を存分に発揮しているものもある。装幀の美しい本が揃う蘭繫之文庫、作家の書斎を覗いたような船山馨文庫、北海道文学論考のベースとなる資料が集まる小笠原克文庫など。 本展では「〇〇文庫」「〇〇コレクション」などと称されるそれらの彩り豊かな資料群に光を当て、文学の魅力を深く掘り下げていく。			
	教育普及事業展示	事業名 (開催時期)	ファミリー文学館 「空を見上げる—太陽・月・星…文学」 (4～6月)	2, 000	・教育普及事業「ファミリー文学館」として実施。家族向け展示と体験型のワークショップを開催する。 観覧料は無料とする。
		[趣旨・内容] この頃、空を見上げたことはありますか。私たちの生活に天気は深い関わりがあり、学校や勤めに行く時、イベントに参加する時は天気の状況が気になるし、仕事をするうえでも天気は関わってくる。 晴れの日、曇りの日、雨降り、満月、三日月、星空など、私たちに身近な四季折々の空の様子。太陽、月、星、雲、雨、雪…。昨年は雪にまつわる文章や作品を紹介。今年は北海道ゆかりの文学（小説、エッセイ、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学）の中から春・夏・秋・冬と変化する空の様子を描いた文章や作品を紹介する。			